

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673000127		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	長岡京ケアハートガーデン グループホーム西山の郷		
所在地	京都府長岡京市奥海印寺三反畑8-1		
自己評価作成日	令和3年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		
所在地	〒612-8243 京都市伏見区久我御旅町3-20		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・今年はコロナ禍で外出の機会が減ったため、室内で季節を感じられるように取り組んだ。普段はお一人おひとりのペースで過ごされているが、何かきっかけがあると皆さんと一緒に物事に取り組むことができ、大きな作品が出来上がり、その作品をみて、自分自身が携わった達成感と、「きれい」という感動が味わうことができている。デイサービスの方とともに参加をすることができて、また心地よく過ごして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点	
-------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・個人の尊厳を大切にして、本人の気持ちを汲み取りながら強制することなく受け入れて、穏やかな時間を過ごして頂いている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・コロナ禍であるが、できる限りの交流に努めている。 ・ボランティアの書道の先生との交流も続けられるように、毎月お手本を頂き、お稽古に励んで、近所の方との展示会や、長岡天神の書初め展に出展して頂いている。4名の方が入選されて、励みになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・例年では中学生の職場体験学習を受け入れることで、認知症の人の理解や支援の方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・フロアの取り組みや状況を報告してし、意見を頂きケアの向上につなげている。また、ご家族の意見により気づかされることがある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議委員会では、近隣の方や、行政・地域包括支援センターの方が含まれており、情報を頂き、暮らしの場で活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・入居者の気持ちにたち、嫌がることはしないなど、身体及び言葉の拘束についての議論を行い、職員間の声かけにより拘束することなく、ケアを行い入居者の気持ちの尊重に努めている。 ・身体拘束だけでなく言葉による拘束も含めユニット会議において研修を行い、職員の意識向上に努めている。 ・内部研修として事例を挙げたシートを用いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・不適切なケアが虐待とならないように、スタッフ間で技術の向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・ユニット内で1名の方が後見人制度を利用されていて、成年後見制度必要性を理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・見学時によりホームの雰囲気を感じてもらったり、面談の時に不安や疑問点を出してもらい話し合いをすることで、理解や安心に繋げている。医療的なことなど、できること、できないことを説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・参加されている皆さんから自由に意見を出してもらうことで、和やかに、情報提供の場であったり、ご家族の近況、ホームでの取り組みの状況などの報告の場となり、理解しあえる場となっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・リーダー会議や年階の個人面談が設けられ、個々人の希望など述べられる場となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・福利厚生として職員にポイントが支給されていて、講習会や旅行や買い物に使うことができる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・ユニット会議では内部研修の計画に沿って研修の場がある。 ・リモートで研修に参加できる環境が整った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・リモートによる講習会では、グループホーム今里も参加をして交流が。 ・今年度は紙上にて乙訓グループホーム連絡会が行われて、コロナ禍でのホーム内で様子の情報交換となった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・初期面談により体調や歩行状態などを確認して、安心安全な環境となるように把握に努めている。今までの生き甲斐活動や、趣味、環境など継続できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の思いを汲み取り、困っている事や今後の不安を受け止め、安心に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご家族と離れる寂しさや不安など精神面での配慮と、早く環境に慣れて頂くように努め、ご家族の安心につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・今まで生活されてきた中で、できることの支援を支えあいながら、見守りすることで、信頼関係を深めていく。下膳や洗濯物を干す・たたむなどは一緒にして生活感をもって共に暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会に来られた際、日々の様子や変化等を伝えて安心に繋げる。またご家族との貴重な時間を有効に使うよう工夫している。 ・いつまでもご家族との絆が絶えないように連絡を密にすることに心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族やなじみの人との付き合いが絶えないように、コロナ禍であっても、感染予防に努めて交流できるように努めている。 ・コロナ禍の為、手紙などで関係継続を試みてはどうかとアイデアを出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・体操など楽しむ時間を通じてお互いを尊重し、関わりながら人間関係の向上に役立っている。 ・ソファに座ってテレビを見る人、テーブル席でパズルをする人、洗濯物をたたむ人、それぞれのことしながらも同じ空間にいる安心感が皆さんの中にある。 ・なんとなく歌をうたったり、一緒にソファに座ってテレビを見ていたりされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられてもいつまでも関係が継続できるように日々信頼関係の構築に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・何気ない会話や、動きから一人ひとりの希望や思いを把握している。家に帰りたい思いや、自分自身の不安な気持ちに寄り添っている。コミュニケーションやスキンシップを通じ、表情や雰囲気の中からご入居者の思いを知るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご家族の面会時においてお話の中から聞いたことを、ユニット会議で情報を共有し、日常生活や会話に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎朝のバイタルチェックと必要に応じた水分摂取量、排便チェックを行い24時間の変化を捉える。顔色や行動などから体調や気分の変化を感じ、心身状態の観察及び洞察を行ない記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月ユニット会議を開きケアカンファレンスをしてモニタリングを実施し、その人らしさとは何かを考え、具体的な援助の方法について意見やアイデアを出しあっている。 ・本人の望ましい全体像が捉えられるように話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の申し送りお一人お一人の過ごし方を把握している。 ・毎日の入居者の言葉や様子を記録している。 ・ユニット会議で話し合い、次のケアプランの基本的なマネジメントをしている。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護支援事業所及び訪問介護事業所を併設しており、情報を共有し、福祉用具や介護用品の相談をしている。 ・在宅時のケアマネジャーやホームヘルパーと支援しあえる環境がある。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>コロナ禍の為、ボランティアの書道の先生とにお手本おw頂き、充実したお稽古をしている。毎年お正月の書初め展に出品している。本人はもとよりご家族の楽しみの力となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畑で野菜作りをされているボランティアさんがいて、夏野菜の収穫を一緒にしたり、秋のお芋堀は皆の楽しみとなっている。 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人及びご家族の希望により、馴染みの医師がかかりつけ医になっていることで信頼関係のもと安心して、診察して頂いている。 ・発熱等、突発的な事に関しても随時連絡が取れる状態である。 ・受診記録は「在宅療養手帳」に記入されて、看護職員とも連携できている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・月に一度看護職員による健康管理を行い、日常の健康状態を報告及び相談しながら、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。 ・毎日の生活状況を話し、健康管理に関する相談をしたり、アドバイスを頂いて入居者の体調の見守りに活かしている。かかりつけ医への連絡も担ってくれている。 ・看護職員による介護につながる医療知識の研修もある。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院されると、ご家族に連絡をして状態の確認を行っている。また病院関係者より情報を得て、退院時に向けて環境を整えている。 ・食事形態嚥下の状態なども看護師に相談し、退院時には不安なくケアができるようにしている。 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時、ターミナルについても触れて、本人及び家族の意向を聴いている。 ・看取りを希望される場合は同意書も交わしている。状態が変われば思いも変わることがあるのでその都度意向を確認しながら、ご家族の協力のもと安心して穏やかな終末を迎えられるよう、医師・看護師とも連携をとっている。 ・ご家族の意向をふまえ、ユニット会議にて職員同士の話しあい、統一したケアができています。 ・必要に応じ地域の訪問看護ステーションと連携して看取りケアを実践している。 ・人生最期の時を家人と共に看取れるように家人と密に連絡をとっている。 ・看取りケアは特別なことではなく、入居されたときから、その人らしい充実した生活が送れるように支援に努めている。 		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・その時々に入居者の急変や事故発生時に備えて、マニュアルに添い、対応できるよう連絡順序の確認している。 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の消防署参加の避難訓練を実施し、入居者・職員が迅速に対応出来るよう確認をしている。 ・職員全員が避難訓練に参加できるようにしている。日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。 ・地域の方にも声掛けをして協力体制をお願いしている。 ・台風21号の時の教訓を生かして今後の取り組みをする。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・お一人お一人を大切に思い、丁寧に名前をお呼びしている。 ・羞恥心やプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常生活に沿ってレクリエーション等、入居者の意見を聞き、何をするか相談しながら、参加をしていただいている。 ・入居者の表情や態度から気持ちを汲み取り自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・入居者の意思に添った時間の使い方を重視して、一人一人に合わせての過ごし方を配慮し、満足できる暮らしにつながるよう職員同士が声を掛け合って、対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・髪の毛が長くなったところを見て、美容師に来て頂いている。希望により髪も染めてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・スタッフと一緒にテーブルを拭いたり、配膳をしたり、食事の準備から食後までの楽しみを共有している。食事が進まない時は、食事時間をずらして、スタッフと一緒に食事したり、おにぎりにするなど、食べやすい形態にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・こまめに水分補給をして、食事摂取量及び水分チェック表を用い観察している。 ・食事が低下した時は主治医に連絡をして相談し、様子を観察している。 ・ご自身でケアができない方にはスポンジブラシや、口腔ケアシートも使用して清潔を保っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・声かけ・見守り・介助を行い、毎食後の口腔ケアに努めている。 ・義歯の方は夜間ポリドントを使用し、消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・本人の行動を読み取り、トイレに案内をして排泄を促すようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘体質の方には、毎朝食事前にコップ一杯の水を飲んでもらうようにしている。トイレに座って腹圧をかけながら、腹部マッサージを行い排便を促している。 ・医師の指示のもと緩下剤にて排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・お一人おひとりの体調や、様子に合わせて声掛けを行い、入浴を行っている。 ・入浴が受け入れられない方には誘導や声掛けに工夫をして、本人の気分に添いながら支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・生活習慣や体調に応じて、休息・安眠できる環境を整えている。混乱しているときには傾聴をして、本人の気持ちに添いながら支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内服の目的・用法・用量について理解し、誤嚥の無いよう確実に服用できるまで確認する。 ・処方が変わった場合は業務日誌に記入し、申し送りにて職員全員が共有する。 ・投薬担当者名を記入して、誤訳しないように確認をしている。 ・内服管理箱をご入居者の目につくところにはおらずに服薬時にはスタッフルームから1名ずつ取り出すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人ひとりに合った役割や、楽しみを把握して、生活に取り入れることで、充実感や達成感を持ってもらう。パズルや塗り絵、季節の作品作りなど見守りの中で完成されている。 ・食事前のテーブル拭き、ベランダできゅうりやゴーヤの栽培をして、一緒に水をやりながら成長を楽しみ、収穫をして、新鮮な野菜を食卓に、ジュースにして頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・コロナ禍で外出の機会が減ってしまっているが、近くのコスモス畑へ散歩に出かけたり、春には車で花見に出かけたりなど外気に触れてもらった。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在は金銭の所持はしていない。 ・今年度より移動市場が来てくださり、フロアのおやつを選んで頂き、買い物を楽しまれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話の使用者は1名おられ、ご家族との絆を大切にされている。 ・家族交流会ではご家族よりお手紙を頂き、何度も繰り返し読まれていた。101歳の方のご家族からは「我が家の家宝です」とお手紙が届いた。 ・頂いた年賀状を嬉しそうに目を通されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・3階はとて見晴らしがよく、畑がある環境で、癒しの空間となっている。自然を肌で感じて、四季折々の山々や小鳥のさえずりを聞き、ご入居者がリラックスしている様子を、空間、時間と共に供して言している。 ・共有スペースに作品を展示することで、達成感を感じえもったり、他者同士の会話が広がったりと意欲の向上や、親睦の深まりにつながっている。 ・夏にはゴーヤなどの野菜を育てて、収穫をしていただき、食事を楽しむことができた。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・自席でゆっくり本を読んだり、パズルなどのレクリエーションを行ったりと、一人でくつろぐことができている。また、ソファでテレビを見たり、他者同士で会話ができる空間になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族と相談をして、なじみの家具や衣類を持ち込み本人の作品や、写真を飾って落ち着ける空間になっている。 ・椅子やコタツでくつろいでいる方もいる。 		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下・浴室・居室にプレートや手すりを設置する事で安心した生活が送れるように工夫をしている。 ・歩行や移動の際はご入居者同士が接触しないように見守りながら付き添いをしている。 		